

講演 「園内公開保育企画・運営について ～園内研修を楽しもう！～」

講師 奈良教育大学 教授 横山真貴子氏

1. なぜ、研修が大切なのか？

【1】

- ・ 職責の遂行（教育基本法・教育公務員特例法）
- ・ それぞれの施設の目的を達成するために必要な知識向上及び技能の修得、維持及び向上（児童福祉施設の設備及び運営に関する基準）
- ・ 専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めなければならない（保育所保育指針）

【2】

- ・ 保育所保育指針（第5章 職員の資質向上のポイント）
- ① 自己研鑽→組織的に対応…園全体で取り組む
- ② 施設長が率先して進める…同僚性作り
- ③ 研修で得た知識を園内で共有
- ④ 専門性が上がる道筋を構築…先を見通す

2. 研修とは？

- ①職務上必要な知識や技術を習得するための学びの機会
⇒保育の場を離れて、保育について省察する機会
⇒保育をより楽しむために、日々の保育の質を向上させるための機会

②研修

自己研鑽・園外研修・園内研修

研修で学んだことを実践すること

一人の学びをみんなの学びにすることになり

組織力が高まる

③「協働型」園内研修とは…

保育者が相互に対話する
チームで課題を解決する
下意上達モデル
保育者の主体性が認められる
悩みを共有できる



3. 園内研修の目的とは？

園内での同僚性の向上（チーム作り）
→単なる仲良しではない!!

- ① 同僚性…意見の違いを超えて、高め合い支え合うようなチーム
研修を通して、個人を育てるのではなく、保育者集団（チームワーク）を育てることが大切
 - ② チーム保育…協働的に保育を行う、日々の実践を継続した視点で見る
 - ③ 協同的リーダーシップ…得意分野を見つけて各リーダーに任せる
- ①②③⇒⇒自分の意見を言えることが大切

4. 園内研修を始めよう！

- ・ 正解を求めようとせず、本音で話し合う
- ・ それぞれの成長を支えあい育ち合うために、同僚性を育てる。そして同僚性を育み学び合う集団になると、保育の質の向上につながる
- ・ 笑顔、挨拶、アイコンタクト、うなずく、身を乗り出す、問い詰めるのではなく問いかける、学ぶ姿勢、穏やかな声、言葉、態度の基本的なルールを意識して参加する

グループ討議 ～各園の園内研修において～

○10グループに分かれて話し合い、それぞれのグループの報告を行う。

【園内研修でどんなことをしているか】

- 園内の公開保育
 - ・内容→研究主題
各年齢の期に沿った子どもの姿
支援の必要な子
写真を使う など
- その他
 - ・事例研修
 - ・カリキュラムについての研修
 - ・行事について
 - ・DVDを視聴し、子どもの遊びの姿や保育者の援助、環境構成について考える

【工夫していること】

- 園内公開保育
 - ・密にならないように廊下から参観する。
 - ・時間帯を区切って参観する。
 - ・交代で保育を参観する。
 - ・カンファレンスに参加する人数を制限する。
- その他
 - ・事前に資料を配り、焦点を絞れるようにする。
 - ・終礼を行い、今日の様子を語り合う。
 - ・写真や事例を読んで、意見を書き込み、他者の思いや考えを知る。
 - ・研修の様子や使用したものを掲示し、視覚化して共有する。

【課題・困ったこと】

- ・職員が多いため、互いの考えや保育について話し合い、共有することが難しい
- ・人数を制限すると、同じ場面を見た保育者が少なく、共有しにくい
- ・意見、課題を深めていくための言葉がけが難しい

【アドバイスやヒント】

- ・時間を上手く活用し、継続する
- ・一緒に話を聞くことで、気持ちが一つになり同じ方向性で取り組める
- ・職員全員が意見を言い合える風通しのよい環境をつくる
- ・共有しやすいように、視覚に訴えられる写真やビデオを工夫し、取り入れる
- ・肯定的な言葉で、子どもの思いを話し合う



○ 横山先生より

コロナ禍の中、各園で研修を工夫し行っている。課題もあるが、それぞれがヒントを見出しながら、今の学びをどう続けていくかということを前向きに考え、良いところを見つける眼をもつことが次につながる。保育に正解はなく、どれか一つのやり方とも決まっていない。

深まるとはということか。ふと立ち止まり振り返ったときに“みんなで語っていた内容だ”“あの時の話は今のこの瞬間のことだ”と思い出し、実体験することが学びにつながっていく。ゆっくり話せた・楽しかったという経験を積み重ねることが大切である。よって学びの成果を急がなくてよい。